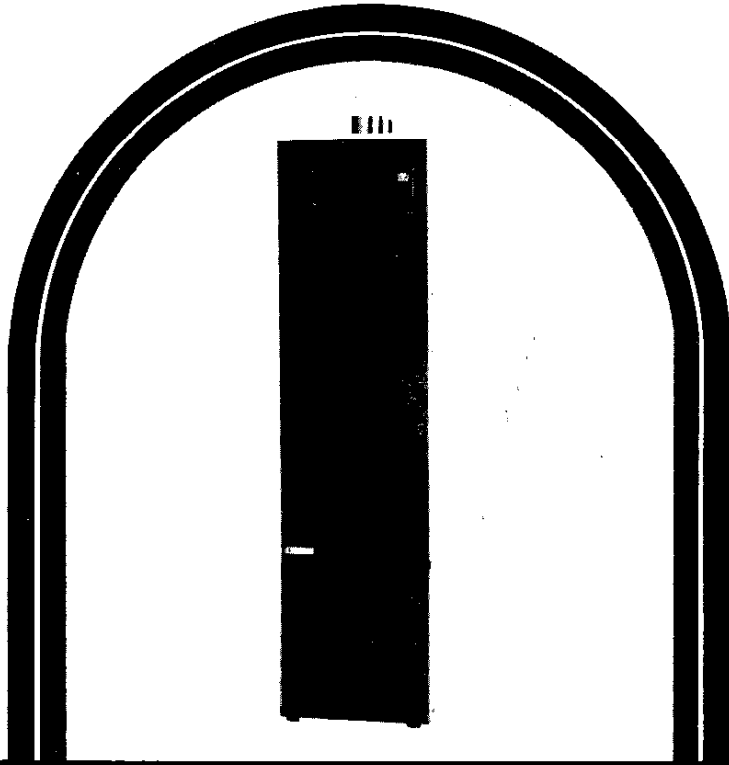
追いだき機能付

ガス湯沸器〈瞬間式〉

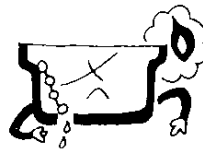
セントラルタイプ（強制給排気方式）

法定型式
M17F1型

取扱説明書

33—361型

ガス器具をお使いになるときのご注意

ガスゴム管も
ときどき点検を
よいゴム管を
カッチリと…

使用中は
熱くなります
手をふれないで
ください！

空だきには
ご注意ください

カス器具は
ガスの種類にあった
正しいものを…

●ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

ごあいさつ

このたびは、**大阪ガス**の追いだき機能付ガス湯沸器〈瞬間式〉をお求めいただきありがとうございました。

ご使用前にこの取扱説明書と別冊の工事説明書をよくお読みのうえ、別添の保証書とともに大切に保管してください。

■特　長

1. このガス器具は1台で数ヶ所に給湯できるガス湯沸器（瞬間式）と、風呂の追いだきができる熱源器の2つの機能を組込んだ追いだき機能付ガス湯沸器です。
2. 給湯と追いだきの同時使用ができます。
3. 給湯コントローラ、風呂コントローラにより器具本体より離れた位置で、点火、消火ができ、給湯コントローラについては、出湯温度の調節もできます。
4. 湯温設定はメーンコントローラのつまみを調節（約31～80℃）するだけで、適温（但し能力の範囲内）のお湯が得られます。
5. 電子コントロール方式で出湯温度を感知して、自動的にガス量を制御しますので、季節により水温が変化しても出湯温度は一定です。
6. 点火方式は直接点火方式で、湯沸器のパイロットバーナーはメーンバーナー消火後約15分で自動消火しますので、消し忘れによるガスのムダがありません。
7. シャワーコントローラ〔別売部品〕を浴室に設置すれば、浴室内から湯温調節ができ、より快適なシャワーが楽しめます。
8. 比較的水圧の低い地域でも、使用可能です。
9. 風呂の追いだきは温水循環による間接加熱方式ですから、浴室の位置と関係なく器具を設置できます。
10. 室内の空気を使用しない強制排気方式です。

目　次

■特に注意していただきたいこと

安全に正しくお使いいただくために、この項は必ずお読みください。

■使用ガスについてのご注意

- ガスの種類を確かめてください。
- ガス器具本体正面にはってある銘板（ラベル）に表示されたガスの種類とお宅のガスが一致しているかをまず確かめてください。
- 銘板に表示されたガス（ガスグループ）以外のガスでは使用しないでください。
- 転宅されたときにも、供給ガスの種類と銘板のガスの種類が一致していることを、必ず確かめてください。ガスの種類が一致していないときは、お近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。
- ガスの種類には都市ガスとＬＰガスとがあり、都市ガスにはガスグループの区分があります。

例 都市ガス用

追いだき機能付湯沸器

型式名	M17F 1型
設置方式	外壁用
都市ガス用	６C
全ガス消費量	32500 Kcal/h
給湯ガス消費量	25000 Kcal/h
追いだきガス消費量	7800 Kcal/h
定格電圧	単相ＡＣ100V
定格周波数	60Hz
定格消費電力	185W

83・1－000001

株式会社　陽栄製作所

追いだき熱出力	6000 Kcal/h
給湯出力	9.3ℓ /min
貯湯量	2.2ℓ

■使用電源についてのご注意

銘板に表示された電源（電圧・周波数）以外では使用しないでください。

■使用場所についてのご注意

1．器具本体の設置について

(1)特殊薬品（アンモニア、イオウ、塩素、エチレン化合物、酸類等）や、その蒸気がかからない所に設置してください。

(2)火災予防上また、保守、アフターサービス上正しく設置されているかご確認ください。（詳しくは工事説明書をお読みください）

(3)家具、壁その他の可燃物から十分離れている場所で使用してください。

(4)給湯配管、風呂ヒーター配管について
脱酸銅管をご使用ください。熱および水圧が加わりますので鉛管および塩化ビニール管は使用しないでください。

(5)排気管および給気管の工事が必要です。工事説明書のとおり工事されていることを確認してからお使いください。

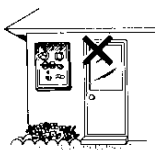
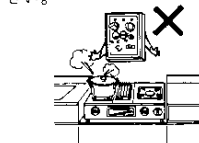
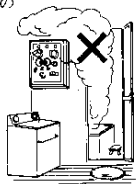
(6)排水処理は工事説明書に記載した方法で必ず行なってください。

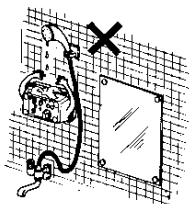
(7)アースについて
アース配線は万一、電気の絶縁が悪くなった場合に起こる感電を防止するものですから必ず取付けてください。

2．給湯コントローラの設置について

(1)湯気、湿気のないところに設置してください。湿気は器具の寿命を短かくします。

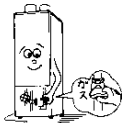
(2)ガスコンロなど燃焼器具に近接する場所への設置をさけてください。

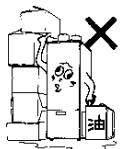
(3)屋外に設置しないでください。

3．風呂コントローラの設置について

シャワーの水（湯）や水しぶきが常にかかるような場所には取付けないでください。

■使用上のご注意

1．ガス漏れ予防

(1)使用中にガスのにおいや、不快なにおいがしていないか時どき確かめてください。

(2)お出かけやお寝みの際には、ガス元せんを必ず閉めてください。

2．火災予防

(1)器具の上や周囲には燃えやすいものを置かないでください。またものを立てかけることは危険ですから絶対に避けてください。

(2)火をつけたまま就寝、長時間の外出は絶対にしないでください。

3．火傷についてのご注意

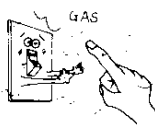
使用中および消火直後は器具本体が高温になっていますので、手をふれないでください。

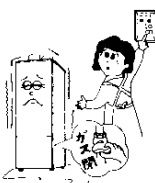
4．落雷について

落雷のおそれのあるときは、使用を中止し、電源プラグを抜いてください。

5．ガス事故防止

(1)ガス漏れに気づいたときは、すぐ使用をやめてガス元せんを閉じ、お近くの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。

(2)万一ガスが漏れたときは絶対に火をつけたり、他の電気器具にふれ（スイッチの入・切や電源プラグの抜き差し等）たりしないでください。

6．異常時の処置

(1)万一異常燃焼したときや、緊急の場合、あわてず給湯コントローラおよび風呂コントローラの運転スイッチを切り、ガスの元せんを閉じて消火してください。

(2)故障したと思われるものは使用しないでください。不完全な修理は危険です。お近くの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご相談ください。

7．飲料用、調理用としてお使いのとき

湯沸器内に長時間たまっていた水は、飲料用又は調理用に用いないでください。

8．水圧が下がったとき

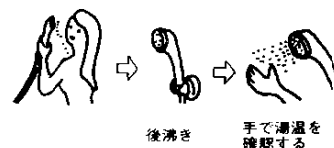
この湯沸器は、0.3kg/㎠以上の水圧が必要です。ご使用中でも水圧が0.3kg/㎠以下にさがると、バーナーは消火しますが故障ではありません。
（給水元せんは全開にしてお使いください。）

9．給湯せんの同時使用について

(1)給湯せんを2ケ所同時使用しますと、湯量が多く流れすぎ、湯温を自動調節できなくなることがあります。
特に高温のお湯をお使いになっているときは、同時使用をさけてください。

(2)シャワー使用中は、できるだけ同時使用をさけてください。

10．シャワー使用時のご注意

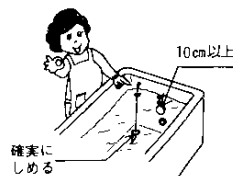
湯を止めた直後、再度お使いになるときは、いきなり体や頭にかからず、手で湯温を確認してからお使いください。湯沸器の後沸きにより一瞬熱い湯が出ることがありますのでご注意ください。

11．お風呂の健浴剤や洗剤についてのご注意

イオウ、酸、アルカリを含んだ健浴剤や洗剤は風呂ヒーターが腐食する原因となりますので使用しないでください。

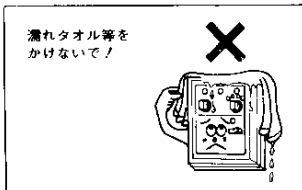
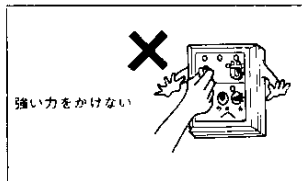
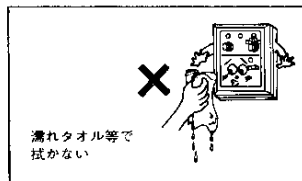
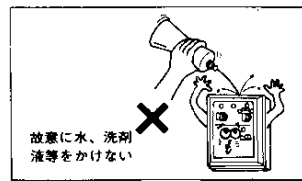
12．循環パイプについて

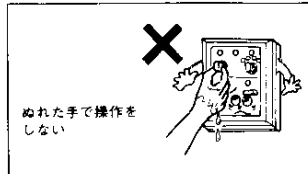
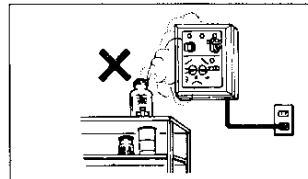
風呂ヒーターと浴そうを接続している上下の循環口をタオルなどで、ふさがないようにしてください。
お湯が循環しなくなります。

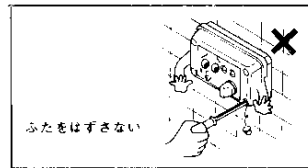
13．風呂追いだき時の注意

器具（追いだき側）に点火する前に浴そうの水面が上部循環口より10cm以上高くなっているか確かめてください。

14. コントローラについてのご注意

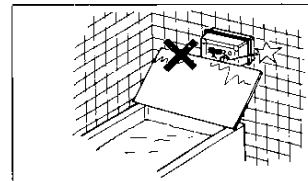
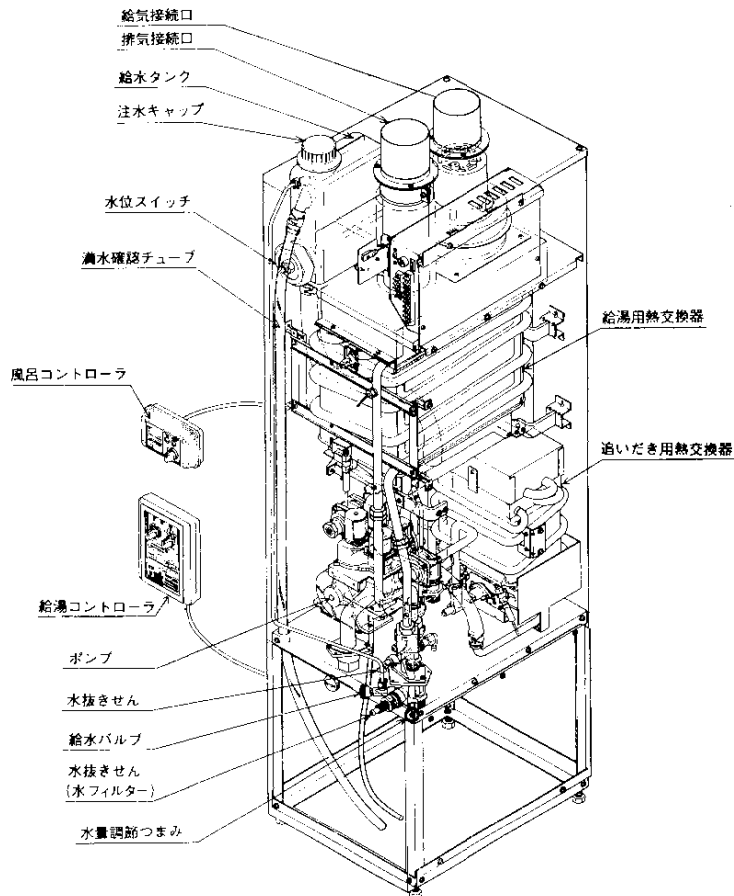
(1) 給湯コントローラ・風呂コントローラについて

● 濡れタオルなどを絶対にコントローラにかけないでください。

● つまみ、スイッチ類はかるく操作し、絶対に強い力をかけないでください。

● 掃除するときはかたくしぼったぞうきんで軽く拭いてください。

● 故意に水、洗剤液（石けん水・健浴剤・タイル洗いなど）をかけないでください。内部に入りますと、いちぢるしく性能が悪くなり故障の原因になります。

(2) 給湯コントローラについて

● 給湯コントローラはぬれた手で操作しないようにしてください。

● 給湯コントローラのそばに薬品（シンナー・塗料・油・アンモニア・酸類など）を置かないようにしてください。

(3) 風呂コントローラについて

● 風呂コントローラは防湿構造を採用しておりますので、風呂コントローラのふたは絶対にはずさないでください。

● 浴そうのふたなどを風呂コントローラ（特につまみなど）に当てないでください。

■各部の名称

給気接続口
排気接続口
給水タンク
注水キャップ
水位スイッチ
満水確認チューブ
風呂コントローラ
給湯コントローラ
ポンプ
水抜きせん
給水バルブ
水抜きせん（水フィルター）
水量調節つまみ
給湯用熱交換器
追いだき用熱交換器

■ご使用方法

■点火前の準備と確認

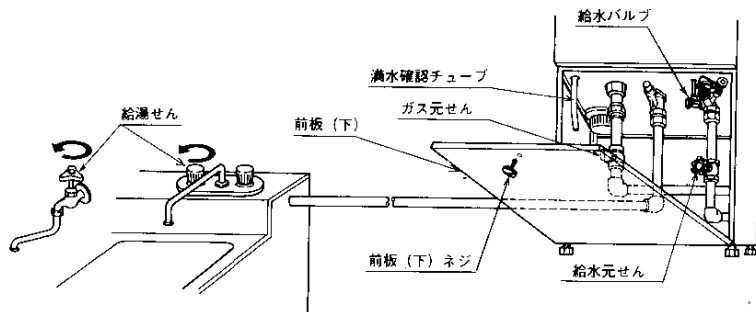
1．前板(下)止ネジをゆるめ、前板(下)をはずしてください。

2．給水元せんを開き、給湯せんを開いて給湯せんから水が流れ出すのを確認してください。
(注)確認後は給湯せんをしめてください。

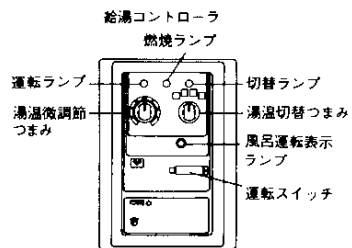
3．給湯コントローラと風呂コントローラの運転スイッチが「切」になっているのを確認し、元電源を「入」にしてください。この時排気ファンがしばらく（約４分間）回っていますが異常ではありません。

4．器具の下部にある給水バルブを開き、給水タンクに給水してください。給水タンクが満水になると満水確認チューブより水が流れ出ますので、給水バルブをしめてください。
(注)初めてご使用になるときは、１回の給水では、まだ配管の中に空気が残っていますので、風呂コントローラの運転スイッチを２回～３回「入」「切」した後、もう一度給水バルブを開いて給水タンクに給水してください。
給水後は必ず給水バルブをしめてください。

5．ガス元せんを全開にしてください。

6．前板(下)を取り付けてください。

■湯沸器を使用される場合

1．給湯コントローラの運転スイッチを「入」にしてください。

2．運転ランプが点灯するのを確かめてください。
(注)切替ランプはシャワーコントローラ(別売部品)の切替スイッチ操作により点・消灯します。シャワーコントローラを取付けられていない場合は切替ランプが点灯します。

3．湯温切替つまみをご希望の所にセットしてください。

絵文字	湯温(℃)	用途	絵文字	湯温(℃)	用途
1	約 35	洗濯など雑用	3	約 48	風呂の落込み用
2	約 42	シャワー用	4 あつい	約 76	風呂の差し湯用

〔注〕この湯温は湯温微調節つまみ中央のときの目安の温度です。
季節により多少変化することがあります。

4．給湯せんを開けてください。自動的にバーナーに着火し、燃焼ランプが点灯してお湯がでます。約10秒待っても着火しなかったときは、燃焼ランプが点滅（２～３回/秒）しますので給湯せんを閉めて運転スイッチを「切」にしてしばらく（約１分）待ってからもう一度運転スイッチを「入」にし、そして給湯せんを開けてください。

5．湯量の調節は、水道を使用される要領で給湯せんを絞ってお使いください。
湯量は約２ℓ/分以下に絞りますと、メーンバーナの火は消えます。

● 季節による水温の変化、湯温によって湯温コントロールからはずれる範囲があります。夏期、水温が30℃近くなりますと水温調節つまみを「１」に湯温微調節つまみを「低」にセットしても湯量が少ない場合、湯温が高くなります。このような場合は水量調節つまみを(大)の方向に回し給湯せんを開けて湯量を多く出してください。
また「３」や「４」の位置では、給湯せんを全開で使うと高温が得られない場合があります。このような場合は、水量調節つまみを(小)の方向にいっぱい回し給湯せんを絞ってお使いください。(水量調節つまみを(小)の方向にいっぱい回すと器具からの出湯量は約９ℓ/分に設定しています。(大)の方向にいっぱいまわすと水圧１kgf/cm²で約13ℓ/分に設定しています。水圧が高い場合は絞ってお使いください。)

水量調節つまみ

6．湯温切替つまみでセットされた湯温をさらに微調節されるときは、湯温調節つまみで行なってください。約±４℃の微調節ができます。
右に回すと…高温に、左に回すと…低温になります。

〔ご注意〕

● 給湯せんで湯量を調節しますと水の中の空気が分離して、気ほうとなり湯が白くなることがありますが、空気ですので何ら心配ありません。

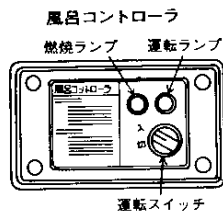
7．消火

(1)給湯せんをしめますと、お湯が止まり、バーナーの炎が消えます。つぎにお使いになるときは、給湯せんを開くだけでバーナーに着火してお湯がでてきます。
● 15分以上お使いにならないとパイロットバーナーが消火しますので、お湯が出るのに少し時間がかかります。

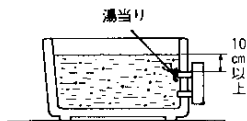
(2)器具の使用が終っても
器具内の排気を追い出すため排気ファンがしばらく（約４分間）まわっていますが異常ありません。

(3)湯沸器をご使用にならないときは、運転スイッチを切ってください。

■風呂の追いだきをされる場合

1．風呂コントローラの運転スイッチを「入」にしてください。運転ランプが点灯後、自動的にバーナーに着火し、燃焼ランプが点灯して、風呂の追いだきを始めます。追いだき開始時、循環水を加熱してから風呂の追いだきがはじまりますので、一般の風呂釜より沸きはじめが少し遅くなります。
運転スイッチを「入」にして、10秒待ってもバーナーに着火しなかったときは燃焼ランプが点滅（2~3回/秒）しますので、運転スイッチを「切」にしてしばらく（約1分）待ってからもう一度「入」にしてください。

(注) ●運転スイッチを「入」にしても運転ランプが点灯しない場合、または追いだき中に運転ランプ、燃焼ランプが消灯した場合、
器具下部にある給水バルブを開き、給水タンクに給水してください。満水確認チューブより水が流れ出たら給水バルブをしめてください。
●風呂の追いだきを長時間運転していると、燃焼ランプだけが消えることがあります。これは循環水の温度が高くなり温度制御装置が作動しているためで、異常ではありません。続けて追いだきされる場合は、運転スイッチを「入」のままにしておいてください。
●追いだき用循環水の補給について
循環水は蒸発などにより減少しますので、給水は1ケ月に1回程度行なってください。(追いだきの使用時間により異なります)循環水が少なくなると、安全装置が働いて運転ランプを「入」にしても運転ランプが点灯せず、器具（追いだき）が使えません。
給水するとまた正常に使えます。水の減りかたが速かったり、急に速くなった場合は、水漏れしている可能性があります。お近くの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。

2．消火
風呂コントローラの運転スイッチを「切」にしてください。バーナーの炎が消え、追いだき機能は停止します。

3．追いだきについて
この器具は風呂の追いだき用に設計されています。
最初は浴そうへ給湯してください。もし浴そうへ水を入れてから沸かす場合は時間が長くかかります。
●浴そうのお湯（または水）が、湯当りの上10cm以上あることを確かめてください。

■停電の場合

●停電のときこの器具は使用できません。
●運転中に停電した場合は自動的にガス通路全てが遮断されます。再通電後は自動的に点火します。

■安全装置が作動したときの処置方法

■処置について

ご使用中に自動的に運転が止まったり、バーナーが消火してしまったときは、次の方法並びに14ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」により処置してください。

■バーナー安全装置

使用中にバーナーの炎が消えたときは、安全装置が働いて自動的にガスが止まり、燃焼ランプが点滅（2～3回/秒）しますので、すぐ運転スイッチを切ってください。
再点火する時はすぐに点火せず、しばらく（約1分）待ってから行ってください。
〔注〕再点火する時、給湯せんをしめてから点火操作してください。

■ハイリミットスイッチ（熱交換器温度感知）

熱交換器の異常な温度上昇をキャッチしてすべてのガスの通路を遮断し、火を消します。
ハイリミットスイッチがはたらいたときは、運転スイッチを何度「切」、「入」しても安全装置がはたらいて、燃焼ランプが点滅（2～3回/秒）します。
このようなときは、運転スイッチを切りガス元せん、給水元せんを閉じて、お近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションへご連絡ください。
〔注〕熱交換器の中の圧力が異常に高くなったとき、器具の損傷を防ぐため過圧逃し弁から圧力を逃します。高温の蒸気が噴出しますのでご注意ください。

■過熱防止温度ヒューズ

ご使用中、器具内の温度が異常に高くなったとき、過熱防止用温度ヒューズが溶けすべてのガスの通路を遮断し、火を消します。
過熱防止装置がはたらいたときは、運転スイッチを何度「切」、「入」しても安全装置がはたらいて燃焼ランプが点滅（2～3回/秒）します。このようなときは、運転スイッチを切り、ガス元せん、給水元せんを閉じて、お近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。

■水位スイッチ

追いだき用循環水は蒸発などにより減少します。給水タンクの水位が下がると、水位スイッチがはたらいて、ガスの通路を遮断し、火を消します。このようなときは、器具本体の上の注水口より給水タンクに水道水を補給してください。通路を遮断し、運転ランプと燃焼ランプが消灯します。このようなときは、器具下部の給水バルブを開け給水タンクへ給水してください。

■ポンプ過熱防止装置

ご使用中、ポンプが異常に高温になると温度スイッチが作動しポンプが止まります。
しばらくするともう一度ご使用になれますが、このような現象がたびたび起こるようでしたらお近くのガスサービスショップもしくは、大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。

■電気ヒューズ

使用中に、なんらかの原因で過電流が流れて電気ヒューズが切れたときは、メーンコントローラのランプが全て消えガス通路が閉まってメーンバーナー、パイロットバーナーの炎が消え、運転が止まります。電気ヒューズが切れたときは、お近くのガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。

■燃焼用ファン安全装置（風量スイッチ）

給湯中、給排気トップが洗たく物などで排気通路を塞がれた場合は、燃焼用ファン安全装置が働いて、ガス通路を遮断しメーンコントローラの燃焼ランプが消えます。スイッチをいったん切って給排気トップに障害物がないことを確認して再度スイッチを入れてください。

■日常の点検・お手入れ

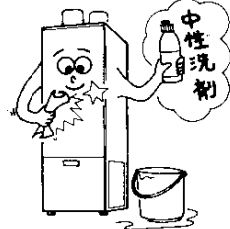
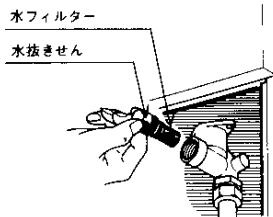
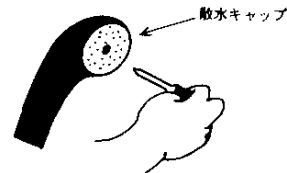
■点検・お手入れの際のご注意

湯沸器を安全・快適にお使いいただくために、日頃の点検・お手入れを習慣づけるようにしてください。
(1)お手入れの前には必ずガス元せんを閉じ、電源コードのプラグを抜いてください。
(2)安全装置及びガスの通路部分は絶対に分解しないでください。

■点検

器具の点検
(1)器具のまわりに燃えやすいものは置かないでください。
(2)器具の下、周囲などに、ちり、ほこりがたまっているときはきれいに取除いてください。
(3)給排気トップの排気口および給気口をふさがないようにしてください。
(4)バーナーに着火するとき、大きな音がしたり、使用中にゴーゴー音がするときは給湯せんまたはシャワーせんを閉め、しばらく待ってから使用してください。
このようなことが時々起る場合は、お近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。
(5)湯沸器が古くなると熱交換器やバーナーにサビやスス、ほこり等がつまったりします。また取り付け場所によりバーナーに「くも」が巣をはることがあります。このような場合不完全燃焼を起すことがあり、ときどきご使用中に、異常(異常音、排気に不快な臭い、目にしみる等)がないか確認してください。
異常に気づかれた場合は、使用を中止し、ガス元せんを閉めてお近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社、サービスステーションにご連絡ください。

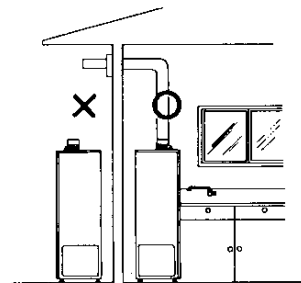
■お手入れ

1. 器具外装の点検
前板や脚に錆が発生した場合は錆を除去してからペンキ、又はラッカーで塗装してください。
又汚れは、布またはスポンジに台所用洗剤(中性洗剤)をつけてふきとってください。
(注)洗剤がのこらないようにふきとってください。

2. 水フィルターの掃除
水フィルターに配管内のゴミ、砂がたまりますとお湯が出にくくなります。
その場合は給水元せんを閉めて、水抜きせんをはずし、水フィルターを引出して掃除してください。

3. シャワーヘッドのお手入れ
シャワーをお使いになるとき、お湯が出にくくなったり、バーナーの炎が消えたりするときは、シャワーヘッドにごみがつまっていることがあります。
シャワーの散水キャップを取外して、掃除してください。

4. 風呂ヒーターの掃除
ときどき浴そう内の湯当りをはずしてゴムホースで強く水を入れて、風呂ヒーターの内部を水洗いしてください。下の循環口から水アカ等がでてきます。(湯アカが風呂ヒーター内からでてくるのは内部がよごれているからです)

■風呂の追いだきを長期間使用しない場合

夏期など長期間追いだきを使用されないとポンプの回転が悪くなる場合がありますので、時々、風呂コントローラの運転スイッチを入れて追いだき(約2分程)してください。

■設置環境の確認について

この湯沸器を設置された後に、増改築や転宅等で設置環境に変化が予想される場合は、大阪ガスにご相談ください。
33-361型は屋内設置タイプですので、そのまま屋外に設置することはできません。

■冬期の凍結による器具の破損防止について

冬の厳寒期には器具や給水・給湯配管の水が凍結して破損することがあります。そこで、庭のたまり水などが凍るおそれのある日は、凍結防止処置をしてください。

〔湯沸器側〕

1．給湯せんから水を流し放しにする方法(一般的な凍結防止方法)

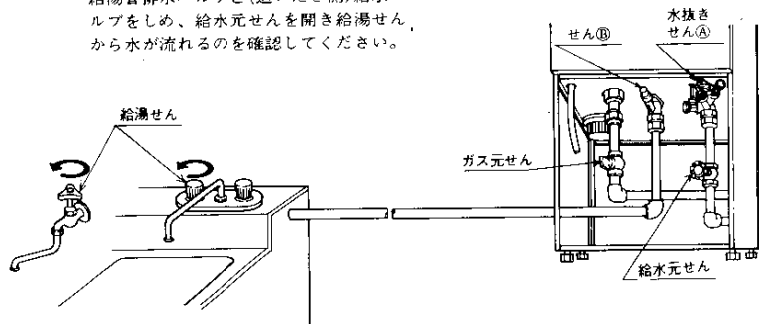
「この場合は器具本体だけでなく、給水管、バルブ類の凍結も防止できます。」
給湯コントローラの運転スイッチを切り、湯沸器に火がつかないようにしてから、給湯せんより少量の水〔1分間に牛乳びん一本以上(200cc以上)、ただし寒さにより流量が異なりますので特に寒い日は多目に〕を流し放しにしておいてください。また、念のため流量が不安定な事がありますので30分ぐらい後にもう一度流量をご確認ください。水を浴そうに流し込まれますと、一晩で浴そう半分から一ぱい程度になります。翌日雑用水としてご利用ください。

2．湯沸器内の水を抜く方法(入居前や長期不在の場合、外気温度が－5℃以下になるような場合)

(注) この方法は給水、給湯配管部分の凍結防止ができません。
次の手順で湯沸器内の水を抜いてください。

① ガス元せんを閉める。
② 給水元せんを閉める。
③ すべての給湯せんを開く。
④ (追いだき側)給水バルブを開く。
⑤ 給湯管排水バルブを開く
⑥ 水抜きせんⒶⒷを左に回してゆるめる。

(注) 水抜きせんⒶⒷの先端の排水用ビニールチューブが排水口につながっているか確認してください。
(注) 水抜きせんⒶⒷは次に使用するまで、取りはずしたままにしておいてください。
(注) 再度使用されるときは、水抜きせんⒶⒷ給湯管排水バルブと(追いだき側)給水バルブをしめ、給水元せんを開き給湯せんから水が流れるのを確認してください。

〔追いだき側〕

1．追いだき側には、凍結防止のために不凍液を使用しています。
2．循環水の補給のため不凍液の濃度が低下しますので1年に1回不凍液の濃度チェックが必要です。
冬期前にお近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションへご用命ください。

■凍結したとき

①器具や配管が破損しますと、高額の修理費用がかかる場合があります。(有償)
②凍結したまま使われますと、器具に異常が生じる場合があります。凍結が溶けた後水もれのないことをご確認の上ご使用ください。
③凍結した場合は、絶対に点火操作をしないでください。

■故障・異常の見分け方と処置方法

ご使用中に、ふだんと違った状態になったときや不都合が生じたときは、そのままお使いにならず、直ちにご使用を中止して十分な点検をお願いします。

■故障、異常の見分け方と処置について（○＝主原因　△＝原因）

原因＼現象	湯沸器：寒い日に給排気トップから湯気が出る。	湯沸器：運転スイッチを入れても運転ランプが点灯しない。	湯沸器：給湯せんを開いても着火しない。着火しにくい。(燃焼ランプ点滅)	湯沸器：使用中に消火した。消火しやすい。(燃焼ランプ点滅)	湯沸器：高温の湯が出ない。	湯沸器：使用中湯温が極端に変動する。	湯沸器：お湯を止めても消火しない。	追いだき：運転スイッチを入れても運転ランプが点灯しない。	追いだき：運転ランプは点灯するが着火しない。(燃焼ランプ点滅)	追いだき：使用中、運転ランプ、燃焼ランプが消灯した。	追いだき：使用中消火した。消火しやすい。(燃焼ランプ点滅)	処置方法	お客さま	♥
コンセントの差込み不十分。	異常ではありません	○						○				コンセントを確実に差込む。	○	
給水タンク内の水不足。								○		○		給水タンクに水を補充する。	○	
ガス元せんの開き不十分。			△	△	○				△		△	器具せんを一たん閉じてからガス元せんを全開にする。	○	
配管内に空気が残っている。			△	△					△		△	ガスが正常に出るまで十分注意しながら使用。	○	
ガス圧が適切でない。 低い			△	△	△				△		△	他の器具も同様の場合は点検依頼する。（他に原因がないとき）		○
ガス圧が適切でない。 高い				△							△			○
給水元せんの開き不十分。			○	△								給湯せんを一たん閉じてから給水せんを全開にする。	○	
水圧が適切でない。 低い			○	△		△						点検又は点検依頼する。（他に原因がないとき）		○
水圧が適切でない。 高い						△								○
水フィルターのつまり。			△	△		△						つまり除去又は依頼する。	○	○
断水している。			○	○								使用を一たん中止する。	○	
凍結している。			○									解凍するまで使用を中止する。	○	○
バーナー炎口づまり、空気口づまり。			△	△	△						△	点検を依頼する。		○
熱交換器の目づまり。				△							△	点検を依頼する。		○
湯温調節が適切でない。					○	○						「使用方法（湯温、湯量調節）」参照。	○	
給湯せんの開き不十分。			△									給湯せんを全開にする。	○	
ノズルづまり。			△						△			点検を依頼する。（他に原因がないとき）		○
安全装置が作動。			○	○					○		○	点検を依頼する。（度々作動する場合）		○
水ガバナー、水流スイッチの故障。			△		△	○	○					点検・修理・部品交換を依頼する。（他に原因がないとき）		○
電気部品の故障。		△	○		△	○	○	△	△	△		点検を依頼する。		○

■長期間使用しない場合

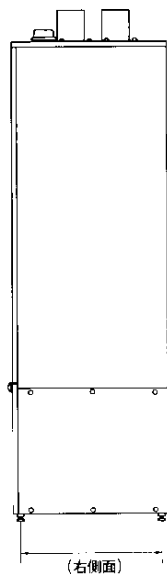
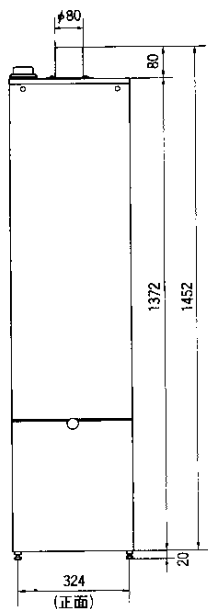
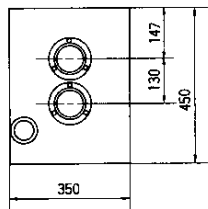
長期間ご使用にならない場合はガス元せんを閉じてください。冬期は器具内の水抜きも行なってください。水抜き方法については12ページの「冬期の凍結による器具の破損防止について」の項をお読みください。

■仕　　様

項目			仕様
器種名			追いだき機能付ガス湯沸器
形式の呼び			33-361型
種類	給(出)湯方式		先止め式
種類	追いだき方式		温水循環式
種類	給排気方式		強制給排気式
点火方式			連続スパーク点火式・ダイレクト着火
給湯作動水圧			0.3kg/cm²
外形寸法			高さ1478mm×幅350mm×奥行450mm
重量（本体）			48kg（運転時）
接続	給水		20A（PT$\frac{3}{4}$B）
接続	給湯		20A（PT$\frac{3}{4}$B）
接続	温水循環	往き	15A（PT$\frac{1}{2}$B）
接続	温水循環	戻り	15A（PT$\frac{1}{2}$B）
接続	ガス		20A（PT$\frac{3}{4}$Bガス管）
給排気筒			径φ80mm、延長7m 3曲り、標準壁厚 250mmまで取付可能
電源			単相AC100V 60Hz
消費電力			185W
安全装置			●バーナー安全装置　●過熱防止温度ヒューズ　●水流スイッチ　●ハイリミットスイッチ　●風量スイッチ　●水位スイッチ　●過圧逃し弁
付属品			●給湯コントローラー　●風呂コントローラー
別売品			●シャワーコントローラー　●給排気トップ　●転倒防止金具

使用ガスグループ		1時間当りのガス消費量kcal/h			出湯能力ℓ/min			追いだき能力（熱源器出力）kcal/h
					上昇温度			
		給湯	追いだき	同時使用	25℃	35℃	40℃	
都市ガス用	6C	25,000	7,800	32,500	(13.0)	9.3	8.1	6,000
都市ガス用	13A	25,000	7,800	32,500	(13.0)	9.3	8.1	6,000

備考●出湯能力：給水圧力1kg/cm²、ガス：JISに規定する標準ガス、標準圧力のとき。

■外形寸法図

(単位 mm)

□アフターサービス(維持管理について)

■サービス(点検・修理)を依頼される前に

- 14ページの「故障・異常の見分け方と処置方法」に示すような故障の症状があった場合、この取扱説明書をよくお読みのうえ、再度点検をしていただき、なお異常のあるときは保証書をお示しのうえ、お近くの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社・サービスステーションにお申し出ください。
- ご不審な点や故障のおきたとき、また部品については、お近くの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社・サービスステーションにお申し出ください。
- ご連絡いただくときは、器具の正面に貼付してあるコード番号も合わせてお知らせください。

〔例〕

(4) 33-361 (U)
大阪ガス株式会社

別添の保証書は大切に保存してください。

■転居される場合

ガスには15の種類があります。ご転居などによりガスの種類が変ったときには、お近くの大阪ガスサービスショップ、もしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご相談ください。
この場合の改造に要する費用は、保証期間内でありましても有償です。

■増改築される場合

器具を取付けた後で増改築などにより、器具の設置環境が変化する場合は、お近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご相談ください。

■おねがい

ガスくさいときは、ガス元せんを閉め、お近くの大阪ガスサービスショップもしくは大阪ガス支社・サービスステーションにご連絡ください。

当社支社・サービスステーションの住所・電話番号は裏面に掲載しております。